



サマースクール2018 ~報告~

期日：平成30年8月4日（土） 場所：熊本県立盲学校



〈ボルダリング〉

当事者や兄弟姉妹を含む14名の子どもたちでボルダリング体験を行いました。

ボルダリング初体験の子どもたちは垂直や手前にせり出した壁に大興奮でした。見えない・見えにくい子どもたちが壁をのぼるときには、ホールドの「HKK（方向・距離・形）」をジムのスタッフの方々に丁寧に教えてもらいました。「山があるから登る」と言いますが、子どもたちは「壁があるなら登りたい!」と意欲満々に何度もチャレンジをしていました。

また、ボルダリングは「自分の力です!」という最もシンプルで大切な部分を感じられたようです。友達の様子を見守りながら応援する姿も見られ、一気に距離を縮めることができたようでした。「機会があったら是非またやってみたい!」という感想を聞くことができました。



〈水泳教室〉

水泳専門の職員が子どもたちの泳力を確かめ、一人一人に合わせたメニューを立てて行いました。そのメニューに沿って、バディが専門の職員のアドバイスを適宜受けながら子どもたち一人一人に付いて指導を行い、取り組みました。

ビート板を持って蹴り足、バタ足の練習や腕の回し方、息継ぎのタイミングなどを練習しました。上手くできると褒められるので、みんな生き生きと練習に励みました。フォームの改善が図られ、みるみる上達していく様子が周囲にもはっきりと分かりました。

子どもたちは、「また来年も来たい!」と嬉しそうに意欲満々の笑顔を見せていました。



〈タブレット活用〉

中学生以上の生徒と一緒に、主に見えにくさを補うアクセシビリティ機能の使い方について紹介しました。拡大鏡、ズーム機能、白黒反転機能、音声読み上げ等の機能をひとつひとつ確認しながら取り組みました。

皆さんとても意欲的で、学習場面毎の活用についてもっと詳しく知りたいとの声も聞かれました。これからもできる限り情報発信をしていきたいと思えます。



〈体験発表・レクリエーション〉

午前中に体験した水泳教室、ボルダリングの感想発表を行いました。自己紹介をしつつ、体験の写真を電子黒板で紹介しながらの発表は、緊張しながらも元気な一日の締めくくりとなりました。

レクリエーションの時間は取れませんでした。が、素敵な笑顔があふれていました。



〈疑似体験・座談会〉

午前中に行われた保護者さんや学校関係の方への疑似体験では、シミュレーションレンズを使った歩行、読み書き、教材教具・便利グッズの紹介を行いました。視野狭窄のシミュレーションレンズを使った歩行では、「日常でどれだけ視覚に頼って歩いているかを体験できた」という感想ができました。視野狭窄と白濁のシミュレーションレンズを使った読み書きでは、「子どもの世界がわかった気がする」「せかさされても、早く書くことはできない。その難しさがわかった」等の声が上がりました。体験をする中で、保護者さん同士の会話も盛り上がり、新しいコミュニケーションの場としても活気のある時間となりました。

午後は、以前サマースクールに学生として参加し、現在は一般企業に就職している先輩をお招きし、座談会を行いました。学生時代のことや現在の仕事の内容、仕事をする上で見えにくさなどを補うために工夫していることなど、なお話をしてくださいました。参加した方からは、進路選択の方法や社会自立に向けた支援の仕方のほかに、移動手段や化粧の方法などの日常生活場面における質問が寄せられました。座談会が終わってからも保護者さん同士で和やかに話をされていました。

〈機器展示〉

県内の眼鏡店からヨネザワ様、大宝堂様、また遮光レンズの東海光学様にお越しいただきました。補装具や日常生活用具の概要について御説明をいただいた後、実際に手にとって試しながらの見学となりました。教育相談等でレンズの選定をしていた複数のご家族が購入の相談をされ、お子さんの学習環境を整える機会にもなったようです。



多くの方のご参加ありがとうございました！

